

## 令和7年度 学校経営計画及び学校評価

## 1 めざす学校像

「高志・卓行」の校訓の下、普通科・英語科・理数科それぞれの特色を活かしつつ、お互いが切磋琢磨することにより、高い学力と豊かな人間性を身につけ、次代を見据えた新たな価値観を見出せる学校

教育目標：「よりよい社会の創造に積極果敢に挑戦する人材」の育成

- 1 知的好奇心を持ち、自ら課題を発見し、その解決に向けて努力できる人材
- 2 高い自尊感情を持ち、自らの考えを積極的に発信できる人材
- 3 他者を尊重し、協働して物事をなそうとする人材

## 2 中期的目標

## 1 知識の理解の質の向上と高い学力の育成

(1) 「わかる授業」から「生徒が主体的に考える授業」をめざした授業改善への取組

ア 公開授業や研究授業を積極的に行うとともに、授業見学カード、授業アンケート等を活用して授業改善に組織的に取り組む。

※ 令和9年度学校教育自己診断（生徒）において、「適切なレベルと進度で授業を行い、教材や教え方について工夫がなされている」の指数を85%以上にする。(R4 82% R5 82% R6 85%)

イ 特色ある教育活動を推進する。特に理数科においては科学的思考力の育成、英語科においてはグローバルな視点を身につけさせるよう取り組む。

※ 令和9年度学校教育自己診断（生徒・保護者）において、「普通科、英語科、理数科の3学科併置の特色を生かした教育活動の充実が図られている」の指数を90%以上にする。生徒 (R4 83% R5 84% R6 84%) 保護者 (R4 92% R5 91% R6 94%)

※ 令和9年度学校教育自己診断（生徒）において、「教育活動を通して、コミュニケーション能力やプレゼンテーション能力が身についた」の指数を80%以上にする。(R4 73% R5 78% R6 79%)

※ 令和9年度学校教育自己診断（理数科生徒）において、「教育活動を通して、科学的な視点が身についた」の指数を85%以上維持する。

(R4 88% R5 84% R6 86%)

※ 令和9年度学校教育自己診断（英語科生徒）において、「教育活動を通して、グローバルな視点が身についた」の指数を85%以上維持する。

(R4 86% R5 88% R6 87%)

(2) 「探究活動」の一層の推進による主体的・対話的で深い学びの充実・深化

ア 「探究活動」「課題研究」において、主体的に学ぶ態度、論理的な思考力・判断力・表現力を育成する。

※ 令和9年度学校教育自己診断（生徒）において、「探究活動を通じて、主体的に学ぶ態度、論理的思考力等が身についた」の指数を80%以上にする。(R4 79% R5 78% R6 76%)

イ 「探究活動」に関する教員のスキルアップに向けた教員研修の実施

※ 令和9年度学校教育自己診断（教職員）において、「日々の教育活動や研修を通じて『探究活動』に関する理解を深めている」の指数を95%以上維持する。(R4 92% R5 95% R6 98%)

(3) 自学自習の習慣を身につけさせるための学力のプロセスと現状を確認できるツールの活用

ア 学習支援クラウドサービスを活用して、生徒自身が進捗状況を確認する。

イ 全国模試を活用することにより、学力定着度等について確認する。

※ 令和9年度学校教育自己診断（生徒）において、「3年間を通じて、自学自習や家庭学習の習慣が身についた」の指数を80%以上にする。(R4 75% R5 75% R6 73%)

(4) ICT活用の推進

ア 生徒の学習意欲向上および学習保障に向け、ICTを積極的かつ効果的に活用し、どんな状況においても学びを止めない体制を構築する。

※ 令和9年度学校教育自己診断（教職員）において、「ICT機器を活用して指導を行っている」の指数を98%以上にする。(R4 98% R5 100% R6 98%)

(5) 第5次大阪府子ども読書活動推進計画に基づく読書活動の推進

ア 図書館の利用促進および読書習慣の確立

※ 令和9年度において、生徒の図書館貸出冊数を2,000冊以上にする。(R4 852冊 R5 1443冊 R6 1640冊)

## 2 安全安心で魅力ある学校づくり

(1) 生徒指導

ア 「時間を守る意識・体調管理の意識向上」「自分から挨拶」運動の推進による基本的な生活習慣の習得および規範意識の向上

※ 令和9年度学校教育自己診断（生徒）において、「基本的な生活習慣やマナーが身についた」の指数を85%以上維持する。(R4 84% R5 87% R6 88%)

※ 令和9年度において、寝過ごしを理由とした遅刻を600件未満にする。(R4 記録なし R5 610件 R6 829件)

※ 令和9年度において、1か年の遅刻ゼロの生徒を全校生徒の60%以上にする。(R4 58% R5 56% R6 57%)

イ 校医やスクールカウンセラーと連携し、生徒一人ひとりの心身の健康・体力を保持増進する力を育成する。

※ 令和9年度学校教育自己診断（生徒・保護者）において、「生徒の健康保持のための指導やけが・病気等に対する対応が適切に行われている」の指数を90%以上維持する。生徒 (R4 94% R5 92% R6 93%) 保護者 (R4 89% R5 93% R6 90%)

ウ 全教職員・生徒で、ごみの減量および分別化を推進する。

エ 校内清掃活動の日常的实施および地域と連携したボランティア活動を推進し、生徒の相互扶助精神を養う。

※ 令和9年度学校教育自己診断（生徒・保護者）において、「生徒が積極的に清掃活動・環境美化に取り組むように指導が行われている」の指数を80%以上にする。生徒 (R4 76% R5 89% R6 79%) 保護者 (R4 80% R5 79% R6 80%)

オ 「開かれた学校づくり」をめざし、HPを活用し、本校の教育活動、生徒の様子等について積極的に外部に発信する。

※ 令和9年度学校教育自己診断（保護者）において、「ホームページ等を通じて、教育活動等について積極的に外部に発信している」の指数を90%以上にする。(R4 88% R5 89% R6 87%)

(2) 特別活動（学校行事、部活動）の充実によるリーダーシップ・パートナーシップ・フォロワーシップの育成

ア E-Fes（体育大会・文化祭）等の学校行事等、生徒会活動を充実させることで、生徒の自主性、協調性、創造力を養う。

※ 令和9年度学校教育自己診断（生徒・保護者）において、「学校行事や部活動等を通じて、生徒が自発的に活動できるよう、自主性を重んじた指導が行われている」の指数を90%以上にする。生徒 (R4 88% R5 90% R6 88%) 保護者 (R4 91% R5 91% R6 94%)

イ 大阪府「部活動の在り方に関するガイドライン」に沿った部活動を推進し、さらなる活性化により自立心・協調性を養う。

※ 令和9年度において、部活動加入率を90%以上にする。(R4 79% R5 82% R6 85%)

※ 令和9年度学校教育自己診断（生徒・保護者）において、「学習と部活動の両立を大切にしている」の指数を85%以上にする。

生徒 (R4 80% R5 82% R6 80%) 保護者 (R4 88% R5 86% R6 88%)

(3) 教育活動全体を通じた人権教育による人権感覚の醸成

ア 人権教育推進委員会を中心とし、教育活動全体を通じて、道徳心および多様性を受容する人権感覚を養う。

イ 芸術鑑賞、人権講演会を通じて、豊かな感性や情操、自他尊重の精神を養う。

※ 令和9年度学校教育自己診断(生徒・保護者)において、「豊かな心や生き方、人権の大切さについて学ぶ機会を設け、違いを認めながら支え合う集団を育てている」の指数を90%以上にする。生徒 (R4 92% R5 89% R6 91%) 保護者 (R4 86% R5 88% R6 89%)

※ 令和9年度学校教育自己診断(生徒・保護者)において、「明るく、充実した学校生活を送っている」の指数を95%以上にする。

生徒 (R4 91% R5 92% R6 94%) 保護者 (R4 92% R5 93% R6 94%)

ウ いじめ防止対策委員会を中心とし、いじめの未然防止および事案発生時は組織的かつ迅速、適切に対応する。

※ 令和9年度学校教育自己診断(教職員)において、「いじめや体罰(その疑いを含む)の問題について、組織的かつ迅速に対応している」の指数を95%以上維持する。(R4 96% R5 100% R6 98%)

(4) 生徒支援の充実

ア スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカー等の外部人材の活用により、教育相談体制を充実させる。また、支援教育推進委員会を中心に生徒情報の共有化に努めるとともに、配慮を要する生徒の実態を的確に把握し、合理的配慮の観点から踏まえた支援を行う。

※ 令和9年度学校教育自己診断(生徒・保護者)において、「生徒の悩みや困ったことに対して、親身な対応がなされている」の指数を85%以上にする。

生徒 (R4 86% R5 87% R6 89%) 保護者 (R4 85% R5 84% R6 87%)

3 進路指導・キャリア教育の充実

(1) 生徒一人ひとりの進路意識の向上に向けた進路講話、情報提供等の充実

ア HR、進路講話等を通じて、生徒の進路意識を向上させる。

イ 進路決定・実現に向けた生徒の主体的な取組を促進する。

ウ 進路や高大連携に関する情報提供を適切かつ速やかに行い、生徒の進路選択を支援する。

※ 令和9年度学校教育自己診断(生徒)において、「HRや進路講話、進路講演会等を通じて、進路に対する意識が高まった」の指数を80%以上維持する。(R4 80% R5 77% R6 81%)

※ 令和9年度学校教育自己診断(生徒)において、「進路についての適切な情報が知らされ、生徒一人ひとりの能力・適性を見極め、きめ細かい進路指導がなされている」の指数を80%以上にする。生徒 (R4 78% R5 78% R6 79%)

(2) 保護者等の進路に関する共通理解、進路意識の向上

ア 保護者への情報提供を適切に行い、家庭との連携を密にして生徒の進路実現を支援する。

※ 令和9年度学校教育自己診断(保護者)において、「生徒一人ひとりの能力・適性を見極め、きめ細かい進路指導がなされている」の指数を75%以上維持する。保護者 (R4 74% R5 73% R6 77%)

(3) 進路実現に向けた教職員の共通理解と指導の充実

ア 大学入試等に関する最新情報を全教職員が正しく理解するとともに、大学入試改革に的確に対応できるよう指導を充実させる。

イ 進学指導力向上に向け、模試分析会、志望校検討会を充実させる。

※ 令和9年度学校教育自己診断(教職員)において、「進路についての適切な情報を生徒に知らせるとともに、生徒一人ひとりの能力・適性を見極め、きめ細かい進路指導がなされている」の指数を95%以上維持する。(R4 96% R5 95% R6 96%)

(4) 生徒の希望する進路の実現

ア 生徒の希望や適性等に応じた適切なガイダンスおよび個別面談を行い、進路結果についての生徒の満足度を高める。

※ 令和9年度卒業生のうち、進路結果についての生徒の満足度を90%以上にする。(R4 89% R5 87% R6 87%)

※ 令和9年度卒業生のうち、現役で国公立大学合格者を60名以上にする。(R4 35名 R5 68名 R6 52名)

(5) 令和7年度学校経営推進費事業「東創究学」(E-PLANET) 構想

— 学校図書館の探究空間創設と自習室の機能強化による東高校のさらなる学究化をめざして —

※ 令和8年度において、現役での国公立大学合格者のうち、総合型選抜での合格率を40%以上にする。(R6 36%)

※ 令和8年度において、図書館を利用した授業を年間50回以上おこなう。(R6 36回)

※ 令和8年度において、学校教育自己診断(生徒)において、「探究活動を通じて、主体的に学ぶ態度、論理的思考力等が身についた」の指数を85%以上にする。(再掲)

※ 令和8年度において、生徒の図書館貸出冊数を2,000冊以上にする。(再掲)

※ 令和8年度において、学校教育自己診断(生徒)において、「普通科、英語科、理数科の3学科並置の特色を生かした教育活動の充実が図られている」の指数を90%以上にする。(再掲)

4 チーム東高校として課題解決にあたる教員集団の確立

(1) 学校の教育課題に対して全員で取り組む環境づくり

ア 学習支援クラウドサービスの活用により、教員間の情報共有、業務の連携、効率化を図る。

イ 学校の課題に適した教員チームを中心として、主体的な教員集団を確立するとともに、意見・提案しやすい環境づくりに努める。

ウ 有事において、教職員へ円滑な情報伝達を行うとともに、早期解決に向け、組織的に対応する。

※ 令和9年度学校教育自己診断において、「教職員間で、生徒情報共有、業務連携、効率化に取り組んでいる」の指数を80%以上維持する。(R4 70% R5 83% R6 86%)

※ 令和9年度学校教育自己診断において、「教育活動における課題や悩みについて、教職員間で話し合うことができ、意見や提案しやすい環境である」の指数を80%以上維持する。(R4 78% R5 83% R6 86%)

※ 令和9年度学校教育自己診断(教職員)において、「地震や火災などの災害時に、迅速で適切な対応ができる態勢が整えられている」の指数を90%以上にする。(R4 87% R5 83% R6 92%)

(2) 働き方改革としての業務の平準化、効率化

ア 学校部活動指針の遵守及び全校一斉定時退庁日の遵守を推進し、時間外在校等時間の縮減を図る。

※ 令和9年度までに、教職員の平均時間外在校等時間を年次減少させ、令和6年度比4%以上減とする。

(12月現在 R4 38時間25分 前年度比5%増 R5 36時間51分 前年度比4%減 R6 35時間14分 前年度比4%減 )

※上記、各指標における「指数」とは、各アンケート等に対する「肯定的な意見の割合」をさす。

## 【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [令和7年12月実施分]	学校運営協議会からの意見
<p><b>【学習活動】</b>            学校教育自己診断（生徒）において、「適切なレベルと進度で授業を行い、教材や教え方について工夫がなされている」の指数が87.9%、「教育活動を通して、コミュニケーション能力やプレゼンテーション能力が身についた」の指数が83.4%であった。            また学校教育自己診断（生徒・保護者）において、「普通科、英語科、理数科の3学科併置の特色を生かした教育活動の充実が図られている」の指数は生徒87.5%、保護者93.9%であった。            日々の授業改善のための取り組みとして6月および11月の2回、各2週間の相互授業見学を実施した。授業を見学した教員から受け取った「授業見学カード」や授業アンケートの結果をもとに、各教科で授業改善に向けて取り組んだ。            今後も生徒を主体とした授業づくりについての研究をより一層深め、より効果的な授業づくりに取り組んでいく必要があると考える。</p> <p>○理数科            学校教育自己診断（理数科生徒）において、「教育活動を通して、科学的な視点が身についた」の指数は91.2%であった。学習効果があったと考えられる具体的活動は次の通りである。            ・1年生は、宿泊野外実習や探究基礎実習を実施し、実物に触れる体験と研究者との対話を体験させることで、自然科学的な思考力や探究心の向上が図れた。また1人1台端末を活用した発表会も実施でき、プレゼンテーション能力の向上を図れた。            ・2年生での先端科学研修では東京大学や筑波研究施設群を訪問し、学校では得ることのできない最先端の研究や技術に触れることができた。理数探究では、生徒が主体的に実験の組み立てから結果の考察までを行うことができた。また、大阪サイエンスデイやSSH 生徒研究発表会へも参加し、他の高等学校の生徒と意見交換や議論を通じた交流を行うことができた。校内の発表会ではすべての生徒が1人1台端末によって実験の成果を発表し、プレゼンテーション能力の向上とともにICT機器の積極的な利用もできた。            ・大学の教授や社会人の講師を招いて行う講演会「レクチャー」を、進路編(3年)、化学編(2年)、医学編(1年)、数学編(1年)、と幅広い分野にわたって実施した。生徒の進路実現や科学的思考の向上に大いに役立った。</p> <p>○英語科            学校教育自己診断（英語科生徒）において、「教育活動を通して、グローバルな視点が身についた」の指数が87%であった。学習効果があったと考えられる具体的活動は以下のとおりである。            ・1年生の英語実習において、訪日観光客への英語によるインタビューを行い、その結果をまとめたプレゼンテーションを行った。また、NETや外部からの外国人講師による英語の活動や講評をふんだんに取り入れることができた。            ・台湾姉妹校とのオンラインによる合同授業を実施した。その中で、双方の生徒が学校生活などについてのプレゼンテーションを英語で行い、その後グループでディスカッションを行った。英語をツールとして使うのみならず、グローバルな視点が身についた。            ・2年生は、夏休み期間にニュージーランドの姉妹校へ短期留学を経験した生徒が多く、国際的視野を広げることができた。            ・普段の授業では「異文化研究」「ディベートディスカッション」「時事英語」等でNETとのチームティーチングを行い、さまざまな国際的なトピックを扱う中で、英語力の養成やより広い視野の育成に努めている。</p> <p>○探究活動            学校教育自己診断（生徒）における「探究活動を通じて、主体的に学ぶ態度、論理的思考力等が身についた」という生徒の指数は81.8%であり、今年度の目標を達成した。ただし、学科別に見た際に普通科の指数が他学科に比べて明確に低く、「書くこと」を中心とした探究活動の指導がなかなか定着しない状況も伺える。生徒のキャリア形成に必須の能力であることをより強く訴えかける必要性を感じる。            また、学校教育自己診断（教職員）において、「日々の教育活動や研修を通じて『探究活動』に関する理解を深めている」の指数も94.9%であり、今年度の目標を達成している。しかし、昨年度より3.1%のマイナスになっていることから、より探究活動に関する教員の理解・関心を深める取り組みが必要であると感じる。            学校教育自己診断（教職員）において、「ICT機器を活用して指導を行っている」の指数は97.4%であり、目標の98%にわずかに及んでいないが、昨年度と比較すると、「1」の回答が48%→56.4%、「2」の回答が50%→41%、「3」の回答が2%→2.6%と変化しており、「3」については教員定数による誤差の範囲内であると考えられ、また、「1」の回答が昨年度より8.4%増加していることから、数値目標上は未達成であっても内容的には十分な達成であると判断できる。            図書館利用に関しては、貸出冊数が12月31日時点で1,911冊であり、想定をはるかに超える高い目標を達成することができた。生徒の来館も非常に多く、朝の自習室開放も生徒が定着しつつある。            図書館及びE-PLANETの授業利用は同日時点で71回であり、十分な目標を達成している。一部教員の利用に偏っている点については、今後多くの先生方が気軽に使えるように周知徹底を行いたい。            今年度も、探究活動・図書館経営ともに昨年度以上に充実した一年となったが、昨年度も述べたように、次年度以降、この勢いを維持し、向上させるには、物的支援・人的支援が絶対不可欠である。現状の運営は、探究活動と図書館業務、情報機器管理業務に圧迫されて、分掌として本務たる授業に支障が出ていると言わざるを得ない。また、図書購入費もさらにかなり手厚くしてもらえたが、それでも資料の充実には、寄贈本などにまだ数万円と頼っている現状がある。公費での図書及び図書装備品の購入予算を手厚く配当していただき、できることであれば、現在大阪府立高校で0人配当となっている学校司書を本校からまず配当していただきたい。            ・第2学年普通科の「総合的な探究の時間」は、昨年度に引き続き、2学期からの班分けに際して生徒への細かなカウンセリングを実施したが、それでも今年度の生徒の活動の進捗はかなり歩みの遅いも</p>	<p>第1回 4月21日(月)            ・部活動における働き方改革について            ⇒部活動指導員の活用を検討する。            ・学校の魅力化発信（Instagramでの情報発信と活用）            ⇒学校で担当者を決め、随時情報を発信していくことで調整。            ・入学者の定員数はどう決まるのか。            ⇒教育委員会が、関係機関とヒアリングをし、決定する。            ・本を読む生徒が増加しているのはなぜか。            ⇒探究活動で本を読む活動を推奨していること、また新刊本や話題本を図書館に入れていることが挙げられる。            ・東高校の強みについて            ⇒高校入試においても選ばれる学校として、毎年倍率を保持しているのは良いことである。            ⇒東高校は立地がよく、生徒が学校生活をのびのび楽しく、進路も充実させられる点が良い。それについては変えずに伸ばしていく方がいい。            ・DXハイスクール事業の継続について            ⇒校内で事業内容を検討していく。</p> <p>第2回 11月20日(木)            ・探究活動で活用しているが、図書の貸し出し冊数が増えてきている。学びに必要なだからという形で本を読んでいるということの一つの現れだと思う。            ・AIの活用というのがすごく広がり過ぎている、一部では弊害も起きているところがある。教育現場でそれを上手く活用できたら良いと思う。AIを伴奏的に支援として使うというのは頭では理解していても、それをどう活用するか、取り組んでいかなければいけない問題だと思う。            ・生徒が横につながっていくことも大切だと思う。東高校内だけで学ぶのではなく、学校外に視野を広げて学ぶという観点から、いろいろな良い取り組みもされていると思う。            ⇒NPO法人や大学、民間業者とのつながりを構築し、生徒たちを巻き込んだ学外活動に活用したいと思う。            ・横に広がる教育では、コミュニケーションの能力がある子はこれを活用できると思うが、人見知りの子やコミュニケーションが苦手な生徒に対するフォローも気を付けてあげてほしいと思う。            ⇒声かけや活動の工夫次第、また機会の与え方が大切だと思う。            ⇒発言や発表の際、生徒たちの安心・安全の保障を確保していくも大切。            ・InstagramやYouTubeといったソーシャルネットワークサービスを用いて、東高校を広報していくことが大事ではないか、そういう取り組みを進めていることにたいへん共感できる。</p> <p>第3回 2月9日(月)            ・生成AIを利用したと考えられる不正が数件見受けられたと伺いました。どう発覚したのでしょうか。            ⇒生成AIを使った中でどうしても整合性が合わない文章表現であったり、参考文献を書いているけどそもそも存在しなかった経緯でわかった。学校としては、注視していく。            ・図書室の本の貸し出し量が一番伸びた原因が分かれば教えてほしい。            ⇒探究の授業計画の段階で、図書館へ行き興味を持った書籍を選び、まず本を読ませるという取り組みからスタートした。初年度は、学校図書館で本を探す、そこで興味を持ち自分が関心を持ったものを1冊まず読んでみるころからスタートしました。何年かやっていく中でだんだん定着し、数が増えてきている。            ・遅刻が増えている。            ⇒8時半以降が遅刻になりますが、大方の遅刻は結局授業間に合うような遅刻になっています。遅刻対策としては、カウンセリングシートのようなものを書き、その後生徒指導部員で対話をする。今後も継続したいと考えている。            ・授業アンケートや学校教育自己診断（生徒版）の結果が良かったのはいいことだと思う。一方、保護者版のアンケート結果では、広報にかかる項目で数値が下がっている。            ⇒ホームページに関して、昨年度より多いぐらいの数で更新している。今年からInstagramやYouTubeも使い、広報活動を強化している。質問の変更も含め検討する。</p>

- のであった。丁寧に進めようとする姿勢は評価されるべきものである一方、期間内に成果を出すことも求められるため、授業デザインのより一層の洗練が求められる。レポート・ライティングについても、内容が難しかったため、次年度はもう少しハードルを下げる必要がある。夏季休業のレポート課題について、生成AIを利用したと考えられる不正が数件見受けられたため、この点も次年度は予防策を徹底したい。
- ・第1学年では「論理コミュニケーション」のプログラムを例年通り実施したが、今年度の生徒の検定結果は1回目の時点で「A」評価の生徒が3名おり、さらに第2回の検定では昨年度の「A」評価者数を大幅に上回った。「書くこと」の指導自体は生徒に定着していると考えられる。これをどのようにレポート・ライティングと接続するのが今後の課題である。
  - ・今年度も、時間の都合上、探究に関する教職員対象研修を実施できなかった。本校はやはり会議や委員会が多く、どうしても教員研修を分掌単位として入れにくい事情があると思われる。管理職が分掌ごとの研修計画をある程度差配する形にしていきたい。次年度は、学校経営推進費事業による講師の教員向け研修（総合型選抜対策講座）が予定されている。多くの先生の参加を期待したい。
  - ・探究活動の情報交換は原則として毎週担当者間で実施し、可能な限り情報を共有し、相談のうえで探究活動を進めることができたと考える。ただし、1人1台端末を用いた授業については、本校のLAN回線の弱さのために320人が同時接続してもインターネットに接続ができず、100人規模に下げても一斉の接続が厳しいことから、この点については増強していただきたい。でなければ、ICTを活用した授業はいずれ教職員の利用にとどまってしまうことになることが安易に推測される。
  - ・授業における教員のICT機器の活用は順調であり、課題のデジタル化も進んでいる。しかし、教室のプロジェクターの不調が急増しており、ニュースでも報じられているように、デジタルよりも紙での指導のほうが学びの効果があるという情報も出ているため、デジタルとアナログの両方をうまく取り混ぜた授業対応を考える必要が今後さらに重要となるであろう。
  - ・図書館の書籍貸出冊数については、ここ数年の入学者が非常に本を借りる傾向が顕著にみられ、今年度は年末時点ですでに令和「8」年度目標の2,000冊に近い1,911冊の貸し出しがある。教員の図書貸し出しも650冊を超えており、図書館の有効活用については感謝することこの上ない。事務課の協力により、什器も充実してきた。一方で、この勢いを維持するには、教員及び分掌の努力だけではもうどうにもならないところまで来ていることも事実である。学校司書の配備並びに図書予算の拡充を強く求める。
  - ・E-PLANET を利用した授業も生徒には好評であるため、一部の教員のみならず、多くの先生方に利用していただければ幸いである。

#### 【生徒指導】

学校教育自己診断（生徒）において、「基本的な生活習慣やマナーが身についた」の指数は90%で昨年度よりさらに向上した。ただし、年間の遅刻件数については、前年比108%の1928件であった（12月末時点）。

個に応じた指導が必要な背景を抱えた生徒の増加傾向がみられ、画一的な早朝登校指導では改善しきれない状況であり、遅刻過多生徒への対話を通じた指導を新規に導入し、生徒の状況に応じた指導の実施と関係性の強化に繋がっていると感じる（対話の実施生徒数59名）。

ただし、寝坊による遅刻は全体の39%となっており、昨年度よりも3ポイント増加した。一方で、遅刻ゼロの生徒の割合は58%であり、昨年度より2ポイント下がっている。

#### 【特別活動】

学校教育自己診断（生徒・保護者）において、①「学校行事や部活動等を通じて、生徒が自発的に活動できるよう、生徒の自主性を重んじた指導が行われている」という指数は生徒94%、保護者92%であった。また、部活動加入率83%であり、学校教育自己診断（生徒・保護者）において、②「学習と部活動の両立を大切にしている」の指数は、生徒83%、保護者88%であった。各項目の分析は次の通りである。

- ・①について E-fes 体育の部に関しては、体育祭実行委員が中心となって、みんなが積極的に参加可能な種目をプロデュースし、クラブ対抗リレーにおいても生徒会執行部の運営にて行った。また E-fes 文化の部においては、生徒会長を中心として、キャッシュレス決済や外部入場の緩和等の刷新をはかった。それ以外にも、生徒会執行部を中心とした企画運営による、自発的な活動の下地を創り、自主性の涵養につながっていると思われる。
- ・②について、部活動の加入時期は「いつでも可能」としているが、年度当初に入部しなかった生徒がそのまま未所属となっており、まだ加入率の上昇の余地はあると考える。一方で、部活動という括り以外で理数科を中心とした独自の探究活動の輪が大きく広がっているように感じている。指標としては過去4年間で、最高値となっているが、1年生80%、2年生79%、3年生89%と開きがあるため、勉強以外の場としての部活動の有用性を教員および生徒ともに見つめなおす時期となっている。

#### 【保健指導】

学校教育自己診断（生徒・保護者）において、「生徒の健康保持のための指導やけが・病気等の対する対応が適切に行われている」の指数は、生徒95%、保護者90%であった。そのための取組みは次の通りである。

- ・4月の健康診断、後日の受診において、全ての生徒が各種検診を終えた。検診結果を踏まえて学校医・検診医の指導・助言のもと、「受診のお願い」を配付し、適宜、個別指導を行った。
- ・定期的に「健康教育だより」を作成し、教室掲示及び配信を行った。
- ・学校教育自己診断（生徒・保護者）において「生徒が積極的に清掃活動・環境美化に取り組むように指導が行われている」の指数は、生徒85%、保護者82%であった。そのための取組みは次の通りである。
- ・保健美化委員が清掃・美化に関するポスターを作成し、掲示した。
- ・「清掃強化週間」を毎定期考査後に設定し、保健美化委員が各清掃場所をチェック表を用いて点検し、清掃監督教員と情報を共有すると共に、クラスメイトに清掃・美化を呼びかけた。
- ・文化祭において、保健美化委員を中心にゴミの分別を責任を持って行い、ゴミを減量化した。
- ・学校教育自己診断（生徒・保護者）において、「生徒の悩みや困ったことに対して、親身な対応がなされている」の指標は生徒90.7%、保護者86.6%であった。そのための取組みは次の通りである。
- ・SCやSSWが定期的に生徒・保護者にカウンセリングを実施し、教職員への助言を行った。また、教

- ・働き方改革について
- ⇒将来的に、年間を通して月の平均残業時間を45時間以内になるよう努める。
- ⇒男性の教員にも育休を取得することを推奨する。
- ・学科改編について
- ⇒普通科志望が高い状況で、総合科学科と国際文化科という2学科体制となるが、立地条件をいかし、東高校のブランドを構築し、生徒のニーズを掘り起こしていく。

育相談委員会にて定期的に SC・SSW との情報共有を行った。

#### 【人権教育】

学校教育自己診断（生徒・保護者）において、「豊かな心や生き方、人権の大切さについて学ぶ機会を設け、違いを認めながら支え合う集団を育てている」の指数は生徒 93%、保護者 89%であった。また、学校教育自己診断（教職員）において「生徒の問題行動およびいじめや体罰（その疑いを含む）の問題について、組織的かつ迅速に対応している」の指数は 97%であった。効果があったと考えられる主な活動は次の通りである。

- ・人権講演会（5月）、芸術鑑賞会（1年生6月、2年生1月、3年生7月）、SNS 人権教育講演会（11月）、教職員・PTA 人権教育研修会（12月）。
- ・7月、12月のいじめアンケートの結果をふまえ、事案と思われる事象について早急に聞き取り調査をおこなった。また、緊急かつ重要度の高いいじめ防止対策委員会を開くことなく、日頃からの各学年との情報共有を進めている体制が機能していると考えられる。

#### 【進路指導】

- ・生徒一人ひとりの進路意識の向上に向けた進路講話、情報提供等の充実については、「HR や進路講話、進路講演会等を通じて、進路に対する意識が高まった」の自己診断（生徒）の指数は 84.4%であり、主体的に進路について考える生徒の割合が高くなってきており、講話や講演会の効果があらわれていると考えられる。
- ・保護者等の進路に関する共通理解、進路意識の向上については、「生徒一人ひとりの能力・適性を見極め、きめ細かい進路指導がなされている」の自己診断（保護者）の指数は 77.1%と昨年度に比べてやや向上しており、保護者対象の講演会および進学説明会の効果が表れている。
- ・進路実現に向けた教職員の共通理解と指導の充実については、「進路についての適切な情報を生徒に知らせるとともに、生徒一人ひとりの能力・適性を見極め、きめ細かい進路指導を行っている」の自己診断（教職員）の指数は 97.4%と高く、学習支援クラウドサービスを活用した情報提供や学年会での情報共有が効果的だったと考えられる。
- ・自学自習の習慣を身につけさせるための学力のプロセスと現状を確認できるツールの活用については、「自学自習や家庭学習の習慣が身についた」の自己診断（生徒）の指数は 61.7%と目標には至らなかった。家庭学習の重要性をよりいっそう講話などで伝えるとともに、模擬試験の振り返りや次回への目標設定をより実践的に活用できるように改善したい。

#### 【学校運営】

- ・学習支援クラウドサービス等を活用することで、学校教育自己診断（教職員）「生徒情報共有、業務連携、効率化に取り組んでいる」の指数は 89%であった。会議や研修等の情報共有や生徒の欠席連絡、災害時等における対応においても、学習支援クラウドサービスを活用し、迅速に情報共有、業務の連携、効率化を図ることができていた効果だと考えられる。
- ・意見・提案しやすい環境づくりでは、学校教育自己診断（教職員）「教育活動における課題や悩みについて、教職員間で話し合うことができ、意見や提案をしやすい環境である」の指数は 84%であった。今後は、将来構想検討チームを発足し、学校の現状把握を行い、課題解決に向けて検討/計画/実践を進める体制づくりができた。
- ・有事における対応では、学校教育自己診断（教職員）「地震や火災などの災害時に、迅速で適切な対応ができる態勢が整えられている」の指数は 92%であった。改善点を盛り込んだ『防犯及び防災計画』、『危機管理マニュアル』を4月に作成し、避難経路及び役割の確認を行った。6月には、避難訓練の結果をもとに、改善点をブラッシュアップし、9月の避難訓練に臨むことができた。
- ・教職員の平均時間外勤務時間は、令和6年度比 19%減であった。安全衛生委員会の報告やアラームメールの活用、会議のペーパーレス化や部活動指導員の導入などを進め、時間外勤務時間の縮減の啓発とともに、負担軽減の方策の継続が功を奏したと考えられる。

## 3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標[R6年度値]	自己評価
1 知識の理解の質の向上と高い学力の育成	<p>(1)「わかる授業」から「生徒が主体的に考える授業」をめざした授業改善への取組</p> <p>ア 公開授業や研究授業を積極的に行うとともに、授業見学カード、授業アンケート等を活用して授業改善に組織的に取り組む。</p> <p>イ 特色ある教育活動を推進する。特に理数科においては科学的思考力の育成、英語科においてはグローバルな視点を身につけさせるよう取り組む。</p>	<p>(1)</p> <p>ア・教員の授業力向上をめざし、年次研修の研究授業に加え、年間2回の公開授業（相互授業見学）を実施し、「授業見学カード」等を活用し、意見交換を行う。</p> <p>イ</p> <p><b>【理数科】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>身の回りの事象について科学的な視点を身につけるため、1年生宿泊野外実習や探究基礎、2年生理数科先端研修における実験や体験学習等を行う。</li> <li>科学・技術への関心を高めるとともに、自己の進路や将来像を考えるため、大学教授による講演(レクチャー)を実施する。</li> <li>コミュニケーション能力、プレゼンテーション能力の向上をめざし、「課題研究」において共同研究および校内発表会を実施するとともに、外部発表会にも参加する。</li> </ul> <p><b>【英語科】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>異なる文化や価値観に対する理解を深めるとともに、プレゼンテーション能力の向上に向け、「英語集中ゼミ(探究活動)」を行う。また、グローバルな視点を身につけるため、講演会を実施する。</li> <li>英語でのコミュニケーション能力を身につけるため、NET(外国語指導員)との交流をはじめ、姉妹校交流、国際交流への参加を積極的に進める。</li> </ul>	<p>(1)</p> <p>ア・学校教育自己診断(生徒)において、「適切なレベルと進度で授業を行い、教材や教え方について工夫がなされている」の指数を80%以上にする。[R6 85%]</p> <p>イ・学校教育自己診断(生徒・保護者)において、「普通科、英語科、理数科の3学科併置の特色を生かした教育活動の充実が図られている」の指数を90%以上にする。[R6 生徒85% 保護者95%]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>学校教育自己診断(生徒)において、「教育活動を通して、コミュニケーション能力やプレゼンテーション能力が身についた」の指数を75%以上にする。[R6 生徒79%]</li> </ul> <p><b>【理数科】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>学校教育自己診断(理数科生徒)において、「教育活動を通して、科学的な視点が身についた」の指数を80%以上にする。[R6 理数科生徒86%]</li> </ul> <p><b>【英語科】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>学校教育自己診断(英語科生徒)において、「教育活動を通して、グローバルな視点が身についた」の指数を80%以上にする。[R6 英語科生徒87%]</li> </ul>	<p>(1)</p> <p>ア・学校教育自己診断(生徒)において、「適切なレベルと進度で授業を行い、教材や教え方について工夫がなされている」の指数が87.9%であった。(◎)</p> <p>イ・学校教育自己診断(生徒・保護者)において、「普通科、英語科、理数科の3学科併置の特色を生かした教育活動の充実が図られている」の指数は生徒87.5%、保護者93.9%であった。(○)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>学校教育自己診断(生徒)において、「教育活動を通して、コミュニケーション能力やプレゼンテーション能力が身についた」の指数が83.4%であった。(◎)</li> </ul> <p><b>【理数科】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>学校教育自己診断(理数科生徒)において、「教育活動を通して、科学的な視点が身についた」の指数が91.2%であった。(◎)</li> <li>理数科1年生の宿泊野外実習は一泊二日での各クラス分散実施で行なった。また、探究基礎実習では理科と数学の全4分野にて実習を行い、GIGA端末を活用した発表会を実施した。</li> <li>理数科2年生の先端科学研修は訪問する研究機関と密に連携しながら実施した。</li> <li>予定している4つのレクチャーのうち、進路編、理学編の2つを実施した。医学編について、生徒へのアンケートを実施した。</li> <li>課題研究中間発表会を実施した。本校教員が審査を行い、選抜された班は大阪サイエンスデイ第1部さらには第2部に出場した。</li> </ul> <p><b>【英語科】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>学校教育自己診断(英語科生徒)において、「教育活動を通して、グローバルな視点が身についた」の指数が89.1%であった。(○)</li> <li>英語科1年生は、一泊二日の英語実習を京都で実施した。日本文化についてのスピーチや外国人観光客への街頭インタビューにより国際的視野を広げた。</li> <li>英語科授業では、NETとJTEのチームティーチングを行い、その交流を通して異文化理解を深めた。</li> <li>8月に実施されたWYMや、ニュージーランド研修において積極的に国際交流を進めた。</li> <li>英語科2年生の集中ゼミでは各班がフィールドワークを実施し、考察、分析を行い、英語でのプレゼンテーションを行った。</li> </ul>
	<p>(2)「探究活動」の一層の推進による主体的・対話的で深い学びの充実・深化</p> <p>ア 「探究活動」「課題研究」において、主体的に学ぶ態度、論理的思考力・判断力・表現力を育成する。</p>	<p>(2)</p> <p>ア・社会に対する生徒の興味・関心、研究に対する意欲を高め、主体的に学ぶ態度、論理的思考力を身につけるため、1年生を「探究基礎」、2年生を「探究実践」と位置づけ、少人数</p>	<p>(2)</p> <p>ア・学校教育自己診断(生徒)において、「探究活動を通じて、主体的に学ぶ態度、論理的思考力等が身についた」の指数を80%以上にする。</p>	<p>(2)</p> <p>ア・学校教育自己診断(生徒)において、「探究活動を通じて、主体的に学ぶ態度、論理的思考力等が身についた」の指数が81.8%であった。(○)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>今年度も1年生は引き続き全学科</li> </ul>

府立東高等学校

	<p>イ 「探究活動」に関する教員のスキルアップに向けた教員研修の実施</p> <p>(3) 自学自習の習慣を身につけさせるための学力のプロセスと現状を確認できるツールの活用</p> <p>ア 学習支援クラウドサービスを活用して、生徒自身が進捗状況を確認する。</p> <p>イ 全国模試を活用することにより、学力定着度等について確認する。</p> <p>(4) ICT 活用の推進</p> <p>ア 生徒の学習意欲向上および学習保障に向け、ICT を積極的かつ効果的に活用し、どんな状況においても学びを止めない体制を構築する。</p> <p>(5) 第5次大阪府子ども読書活動推進計画に基づく読書活動の推進</p> <p>ア 図書館の利用促進および読書習慣の確立</p>	<p>のチームで「探究活動」を実施する。</p> <p>イ・全教員が「探究活動」の趣旨目的を共有し、生徒の活動を充実させるとともに指導助言力を向上させ、教科指導等にも活かせるよう、定期的に情報交換会、教員研修を実施する。</p> <p>(3)</p> <p>ア・学習支援クラウドサービスのポートフォリオ機能を活用して、学習の振り返りを行う。</p> <p>イ・年間3回の全国模試の結果をもとに担任と面談を通じて、学力定着度や学習への取組について確認する。</p> <p>(4)</p> <p>ア・授業において1人1台端末を利用した教材活用や課題作成を積極的に進めるとともに、臨時休校等に備え、日常的にWeb会議システムを活用する。</p> <p>(5)</p> <p>ア・教科指導や探究活動などで積極的に図書館の書籍を活用する。また、生徒のニーズを把握し、オンラインを活用した図書館の書籍紹介やデジタル書籍の貸出を行う。生徒の読書意欲向上に向け、ビブリオバトルへの参加を促進する。</p>	<p>[R6 生徒76%]</p> <p>イ・学校教育自己診断(教職員)において、「日々の教育活動や研修を通じて『探究活動』に関する理解を深めている」の指数を90%以上にする。[R6 教職員98%]</p> <p>(3)</p> <p>ア・イ</p> <p>・学校教育自己診断(生徒)において、「3年間を通じて、自学自習や家庭学習の習慣が身についた」の指数を80%以上にする。[R6 3年生73% (R4 1年生43%)]</p> <p>(4)</p> <p>ア・学校教育自己診断(教職員)において、「ICT機器を活用して指導を行っている」の指数を98%以上とする。[R6 98%]</p> <p>(5)</p> <p>ア・生徒の図書館貸出冊数を1800冊以上にする。[R6 1640冊]</p> <p>・図書館を利用した授業を年間40回以上おこなう。[R6 36回]</p>	<p>「論理コミュニケーション」に取り組み、文献の引用方法も含めて指導を行っている。2年生は個人レポートの完成を徹底し、各自のレポートをもとにしたグループ探究に取り組んでいる。</p> <p>イ・学校教育自己診断(教職員)において、「日々の教育活動や研修を通じて『探究活動』に関する理解を深めている」の指数が94.9%であった。(◎)</p> <p>・担当者との打合わせは週1回を原則として実施しているが、担当外教員への協力要請や、英語科・理数科との情報共有が不足しているように感じられるため、以後の課題としたい。</p> <p>(3)</p> <p>ア・学校教育自己診断(生徒)において、「3年間を通じて、自学自習や家庭学習の習慣が身についた」の指数が3年生で77%であった。(○)</p> <p>・学習支援クラウドサービスのポートフォリオ機能を活用して、課題や学習の振り返りおよび評価を入力することで1学期の活動に対する振り返りを行った。</p> <p>イ・これまで実施したすべての模擬試験について、各学年の担任団と模試分析会を行い、現状の学力の到達度について認識を共有するとともに、今後取り組むべき課題を提示し、学習への取り組み方法を確認した。</p> <p>(4)</p> <p>ア・学校教育自己診断(教職員)において、「ICT機器を活用して指導を行っている」の指数が97.4%であった。(○)</p> <p>・ほとんどの教員が、1人1台端末の利用ならびに課題配信を、ICT機器を用いて行っている。臨時休校時の学校としてのシステム構築は今後の課題である。</p> <p>(5)</p> <p>ア・今年度の生徒の図書貸出冊数は2,288冊であった。(◎)</p> <p>・今年度、図書館を利用した授業は72回行われた。(◎)</p> <p>特定の教員が利用している状況があるため、全教員に利用を促していきたい。</p>
<p>2 安全安心で魅力ある学校づくり</p>	<p>(1) 生徒指導</p> <p>ア 「遅刻ゼロ」「自分から挨拶」運動の推進による基本的な生活習慣の習得および規範意識の向上</p> <p>イ 校医やスクールカウンセラーと連携し、生徒一人ひとりの心身の健康・体力を保持増進する力を育成する。</p>	<p>(1)</p> <p>ア・毎日の挨拶励行に加え、生徒会、風紀委員による挨拶運動を定期的に行う。</p> <p>・年間3回の遅刻防止週間を設けるとともに、丁寧に粘り強く個別指導を行う。</p> <p>イ・生徒全員に各種健診を受診するよう指導する。また、その結果や健康調査をもとに校医の指導・助言を得て、適切に健康指導を行う。</p>	<p>(1)</p> <p>ア・学校教育自己診断(生徒)において、「基本的な生活習慣やマナーが身についた」の指数を80%以上にする。[R6 生徒88%]</p> <p>・寝過ごしを理由とした遅刻を600件未満にする。[R6 829件]</p> <p>・1か年の遅刻ゼロの生徒を全校生徒の60%以上にする。[R6 57%]</p> <p>イ・学校教育自己診断(生徒・保護者)において、「生徒の健康保持のための指導やけが・病気等に対する対応が適切に行われている」の指数を85%以上にする。</p>	<p>(1)</p> <p>ア・学校教育自己診断(生徒)において、「基本的な生活習慣やマナーが身についた」の指数は89%であった。(◎)</p> <p>・寝過ごしによる遅刻992件。(△)</p> <p>・遅刻ゼロの生徒は54.0%であった。(△)(512名/948名)</p> <p>・遅刻総数2,466件。</p> <p>イ・学校教育自己診断(生徒・保護者)において、「生徒の健康保持のための指導やけが・病気等に対する対応が適切に行われている」の指数が生徒95.4%、保護者90.7%であつ</p>

府立東高等学校

	<p>ウ ごみの減量および分別化を推進するとともに、校内清掃活動および大掃除等により、校内美化の意識を高める。</p> <p>エ 「開かれた学校づくり」をめざし、HP を活用し、本校の教育活動、生徒の様子等について積極的に外部に発信する。</p> <p>(2) 特別活動(学校行事、部活動)の充実によるリーダーシップ・パートナーシップ・フォローアップの育成</p> <p>ア E-Fes(体育大会・文化祭)等の学校行事等、生徒会活動を充実させることで、生徒の自主性、協調性、創造力を養う。</p> <p>イ 大阪府「部活動の在り方に関するガイドライン」に沿った部活動を推進し、さらなる活性化により自立心・協調性を養う。</p> <p>(3) 教育活動全体を通じた人権教育による人権感覚の醸成</p> <p>ア 人権教育推進委員会を中心とし、教育活動全体を通じて、道徳心および多様性を受容する人権感覚を養う。</p> <p>イ 芸術鑑賞、人権講演会を通じて、豊かな感性や情操、自己尊重の精神を養う。</p> <p>ウ いじめ防止対策委員会を中心とし、いじめの未然防止および事案発生時は組織的かつ迅速、適切に対応する。</p>	<p>ウ・毎日の清掃と大掃除(月に1回程度)を行うことで校内美化の意識を高めるとともに、美化委員による自主的な清掃活動を促進する。ゴミの持ち帰りに関する啓発ポスターの作製・掲示やデジタル化により、ゴミの減量化・分別化に取り組む。</p> <p>エ・本校の授業や学校行事、部活動の様子等について、ホームページで年間400件以上更新する。</p> <p>(2)</p> <p>ア・生徒会執行部のミーティングを定期的に開催し、執行部の連携を深めるとともに、学校行事等に関する生徒のニーズを把握し、生徒主体の特別活動の運営を進める。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学年・学科、クラブの枠を越えた、東高校の一員として生徒同士のつながりを実感できる活動の場を創造する。</li> </ul> <p>イ・部活動への加入を促すため、校内での表彰掲示や中庭ライブ、クリスマスライブなどの活動発表の場を創出する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・クラブ間のつながり、リーダーとしての意識付け、自主的な取り組みを促すため、クラブ代表者会議を開催し、ひとつの学校としての一体感を醸成する。</li> </ul> <p>(3)</p> <p>ア・生徒が安全で安心できる学校生活を送れるよう、生徒・教員アンケートを実施し、生活実態を定期的に把握する。不安な状況があれば、関係各所で連携し、速やかかつ組織的に対応する。</p> <p>イ・各学年において年1回芸術鑑賞を実施する。また、全学年対象の人権講演会を年1回実施する。</p> <p>ウ・いじめ防止対策委員会を中心に、基本的な対応について教員間で共有するとともに、積極的にいじめを認知する。</p>	<p>[R6 生徒94% 保護者90%]</p> <p>ウ・学校教育自己診断(生徒・保護者)において、「生徒が積極的に清掃活動・環境美化に取り組むように指導が行われている」の指数を生徒、保護者ともに75%以上にする。 [R6 生徒78% 保護者80%]</p> <p>エ・学校教育自己診断(保護者)において、「ホームページ等を通じて、教育活動等について積極的に外部に情報を発信している」の指数を85%以上にする。 [R6 保護者87%]</p> <p>(2)</p> <p>ア・学校教育自己診断(生徒・保護者)において、「学校行事や部活動等を通じて、生徒が自発的に活動できるよう、生徒の自主性を重んじた指導が行われている」という指数を85%以上にする。 [R6 生徒88% 保護者94%]</p> <p>イ・部活動加入率を85%以上にする。 [R6 85%]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学校教育自己診断(生徒・保護者)において、「学習と部活動の両立を大切にしている」の指数を80%以上にする。 [R6 生徒80% 保護者88%]</li> </ul> <p>(3)</p> <p>ア・学校教育自己診断(生徒・保護者)において、「豊かな心や生き方、人権の大切さについて学ぶ機会を設け、違いを認めながら支え合う集団を育てている」の指数を85%以上にする。 [R6 生徒91% 保護者89%]</p> <p>イ・学校教育自己診断(生徒・保護者)において、「明るく、充実した学校生活を送っている」の指数90%以上にする。 [R6 生徒94% 保護者94%]</p> <p>ウ・学校教育自己診断(教職員)において、「生徒の問題行動およびいじめや体罰(その疑いを含む)の問題について、組織的かつ迅速に</p>	<p>た。(◎)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・4月の健康診断、後日の受診において、ほぼすべての生徒が各種検診を終えた。検診結果を踏まえて校医の指導・助言のもと、「受診のお願い」を配布し、適宜、個別指導を行っている。また、定期的に「健康教育だより」の配信や掲示を行っている。</li> </ul> <p>ウ・学校教育自己診断(生徒・保護者)において、「生徒が積極的に清掃活動・環境美化に取り組むように指導が行われている」の指数が生徒85.3%、保護者82.2%であった。(◎)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・保健美化委員が定期的に清掃チェックを行い、各クラスでその結果を共有している。また、清掃に関するポスターを作成し掲示している。文化祭では、ゴミの分別に取り組み、意識が向上している。</li> </ul> <p>エ・学校教育自己診断(保護者)において、「ホームページ等を通じて、教育活動等について積極的に外部に情報を発信している」の指数が83%であった。(○)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学校HPにおいて、347件の新規記事を更新した。またSNS等のアカウントを開設し、94件の記事と5本の動画を投稿し学校の情報発信に努めている。</li> </ul> <p>(2)</p> <p>ア・学校教育自己診断(生徒・保護者)において、「学校行事や部活動等を通じて、生徒が自発的に活動できるよう、生徒の自主性を重んじた指導が行われている」という指数は、生徒94%、保護者92%であった。(◎)</p> <p>イ・部活動加入率83.1%(○)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学校教育自己診断(生徒・保護者)において、「学習と部活動の両立を大切にしている」の指数は、生徒83%、保護者88%であった。(○)</li> </ul> <p>(3)</p> <p>ア・学校教育自己診断(生徒・保護者)において、「豊かな心や生き方、人権の大切さについて学ぶ機会を設け、違いを認めながら支え合う集団を育てている」の指数は生徒93%、保護者89%であった。(◎)</p> <p>イ・学校教育自己診断(生徒・保護者)において、「明るく、充実した学校生活を送っている」の指数は生徒94%、保護者95%であった。(○)</p> <p>ウ・学校教育自己診断(教職員)において、「生徒の問題行動およびいじめや体罰(その疑いを含む)の問題について、組織的かつ迅速に対応して</p>
--	---	---	---	--

## 府立東高等学校

	<p>(4) 生徒支援の充実</p> <p>ア スクールカウンセラー等の外部人材の活用により、教育相談体制を充実させ、また、生徒情報の共有化に努め、配慮を要する生徒の実態を的確に把握し、合理的配慮の観点から踏まえた支援を行う。</p>	<p>・事案発生時は、速やかにいじめ対策委員会を開催し、情報共有のうえ解決策を検討し、適切に対応する。</p> <p>(4)</p> <p>ア・スクールカウンセラー等による教員研修を年1回以上実施し、生徒一人ひとりに対する理解を深め、より適切な対応に努める。</p> <p>・「高校生活支援カード」等を活用し、配慮を要する生徒を速やかに把握するとともに、生徒、保護者、関係部署で連携し、当該生徒に必要な学習面、生活面等の配慮を行う。</p>	<p>対応している」の指数を90%以上にする。 [R6 98%]</p> <p>(4)</p> <p>ア・学校教育自己診断(生徒・保護者)において、「生徒の悩みや困ったことに対して、親身な対応がなされている」の指数を80%以上にする。 [R6 生徒89% 保護者87%]</p>	<p>いる」の指数は97%であった。(○)</p> <p>(4)</p> <p>ア・学校教育自己診断(生徒・保護者)において、「生徒の悩みや困ったことに対して、親身な対応がなされている」の指標は、生徒90.7% 保護者86.8%であった。(◎)</p> <p>・「高校生活支援カード」や会議で生徒情報を共有し、当該生徒に必要な学習面、生活面等の配慮を行っている。</p>
<p>3 進路指導・キャリア教育の充実</p>	<p>(1) 生徒一人ひとりの進路意識の向上に向けた進路講話、情報提供等の充実</p> <p>ア HR、進路講話等を通じて、生徒の進路意識を向上させる。</p> <p>イ 進路決定・実現に向けた生徒の主体的な取組を促進する。</p> <p>ウ 進路や高大連携に関する情報提供を適切かつ速やかに行い、生徒の進路選択を支援する。</p> <p>(2) 保護者等の進路に関する共通理解、進路意識の向上</p> <p>ア 保護者への情報提供を適切に行い、家庭との連携を密にして生徒の進路実現を支援する。</p> <p>(3) 進路実現に向けた教職員の共通理解と指導の充実</p> <p>ア 大学入試等に関する最新情報を全教職員が正しく理解するとともに、大学入試改革に的確に対応できるよう指導を充実させる。</p>	<p>(1)</p> <p>ア・各学年、年2回の進路講話および生徒の進路希望に応じたコース別説明会・学校別説明会を実施する。</p> <p>・本校独自の「進路の手引」を全校生徒に配付する。また、各学年に必要な進路情報を掲載した「進路ニュース」を年2回以上発行し、全校生徒に配付する。</p> <p>イ・学習支援クラウドサービスのポートフォリオ機能を活用し、キャリアパスポートを学期ごとに作成させる。</p> <p>ウ・学習支援クラウドサービスを活用し、国公立大学等に関する情報提供を随時教員向け、生徒向けに行うとともに、大阪公立大や関西大などの高大連携による様々なイベントの紹介を一層充実させる。</p> <p>(2)</p> <p>ア・保護者対象の進路講演会を年2回以上、大学見学会を年1回実施する。また、保護者が相談しやすい環境をつくる。</p> <p>(3)</p> <p>ア・大学入試等に関する最新情報について、学習支援クラウドサービスを用いて全教職員に適宜配信するとともに、進路指導主事が学年会に出席して入試動向を伝達する。</p>	<p>(1)</p> <p>ア・学校教育自己診断(生徒)において、「HRや進路講話、進路講演会等を通じて、進路に対する意識が高まった」の指数を75%以上にする。 [R6 生徒81%]</p> <p>イウ・学校教育自己診断(生徒)において、「進路についての適切な情報が知らされ、生徒一人ひとりの能力・適性を見極め、きめ細かい進路指導がなされている」の指数を75%以上にする。 [R6 生徒79%]</p> <p>(2)</p> <p>ア・学校教育自己診断(保護者)において、「進路についての適切な情報が知らされ、生徒一人ひとりの能力・適性を見極め、きめ細かい進路指導がなされている」の指数を70%以上にする。 [R6 保護者78%]</p> <p>(3)</p> <p>アイ・学校教育自己診断(教職員)において、「進路についての適切な情報を知らせるとともに、生徒一人ひとりの能力・適性を見極め、きめ細かい進路指導がな</p>	<p>(1)</p> <p>ア・学校教育自己診断(生徒)において、「HRや進路講話、進路講演会等を通じて、進路に対する意識が高まった」の指数が84.4%であった。(◎)</p> <p>・3年生に対して進路講話を2回、進路説明会を1回、大学説明会を3回実施した。1・2年生に対して進路講演会をそれぞれ1回実施した。</p> <p>・『進路の手引』を作成して6月中に全校生徒に配布し、3年生の進路講話および全学年の三者面談で活用した。1学期末に3学年それぞれに必要な進路情報を掲載した「進路ニュース」を作成して配付した。</p> <p>イ・学校教育自己診断(生徒)において、「進路についての適切な情報が知らされ、生徒一人ひとりの能力・適性を見極め、きめ細かい進路指導がなされている」の指数が85.7%であった。(◎)</p> <p>・学習支援クラウドサービスのポートフォリオ機能を活用して、各学年の生徒にそれぞれのテーマに沿った進路に関する課題をまとめた。</p> <p>ウ・学習支援クラウドサービスの校内グループ機能を活用して国公立大学をはじめとする大学入試に関する情報提供を随時教員向け、生徒向けに行った。また、大阪公立大学、関西大学の希望者対象の説明会を校内で実施した。</p> <p>(2)</p> <p>ア・学校教育自己診断(保護者)において、「進路についての適切な情報が知らされ、生徒一人ひとりの能力・適性を見極め、きめ細かい進路指導がなされている」の指数が77.1%であった。(◎)</p> <p>・保護者対象の進路講演会を5月と6月の2回、大学見学会(立命館大学・大阪公立大学)を1回実施した。</p> <p>(3)</p> <p>ア・学校教育自己診断(教職員)において、「進路についての適切な情報を知らせるとともに、生徒一人ひとりの能力・適性を見極め、きめ細かい進路指導がなされている」の指</p>

府立東高等学校

	<p>イ 進学指導力向上に向け、模試分析会、志望校検討会を充実させる。</p> <p>(4) 生徒の希望する進路の実現 ア 生徒の希望や適性等に応じた適切なガイダンスおよび個別面談を行い、進路結果についての生徒の満足度を高める。</p> <p>(5) 令和7年度学校経営推進費事業「東創究学」(E-PLANET) 構想</p>	<p>イ・模試分析会、志望校検討会では、生徒一人ひとりの能力、適性を見極めるため、担任、関係教員の意見を全員で共有する。</p> <p>(4) ア・定期的に面談に必要な資料提供を行い、生徒の希望や適性等に応じた適切なガイダンスおよび個別面談を行う。また進路閲覧室の活用を促すとともに、進路に関してきめ細かいアドバイスを提供する。</p> <p>(5) ア・総合型選抜対策講座を開講し、さらに新図書館という学びの場を通じて、生徒の希望する進路の実現を支援する。 イ・図書館の改装に伴う書籍や棚の整理およびレイアウト変更と設備のリニューアルを行い、学びのハブとしての読書活動・探究活動を深め、さらに自習室機能を増強する。また、利活用時を促し、生徒の諸活動をサポートする。 ウ・学びのハブとしての書籍の配架に際して、生徒の興味を惹き、学びの質と生きる力の向上に寄与する書籍を選定する。</p>	<p>されている」の指数を90%以上にする。[R6 96%]</p> <p>(4) ア・令和7年度卒業生のうち、進路結果についての生徒の満足度を90%以上にする。[R6 87%] ・令和7年度卒業生のうち、現役で国公立大学合格者を55名以上にする。[R6 51名] ・現役での国公立大学合格者のうち、総合型選抜での合格者率を25%以上にする。[R6 36%]</p> <p>(5) ア・令和7年度において、現役での国公立大学合格者のうち、総合型選抜での合格者を25%以上にする。(再掲) イウ・図書館を利用した授業を年間40回以上おこなう。(再掲) ・令和7年度において、学校教育自己診断(生徒)において、「探究活動を通じて、主体的に学ぶ態度、論理的思考力等が身についた」の指数を80%以上にする。(再掲) ・令和7年度において、生徒の図書館貸出冊数を1800冊以上にする。(再掲) ・令和7年度において、学校教育自己診断(生徒)において、「普通科、英語科、理数科の3学科並置の特色を生かした教育活動の充実が図られている」の指数を90%以上にする。(再掲)</p>	<p>数が97.4%であった。(◎)</p> <p>・学習支援クラウドサービスの校内グループ機能を活用して入試検討会や大学の教員対象説明会を案内するとともに、参加して得た情報を共有した。適宜学年会に参加し、進路情報を共有した。</p> <p>イ・模試分析会で担任および関係教員と情報共有するとともに、教員の進路相談にも適切に対応している。</p> <p>(4) ア・令和7年度卒業生のうち、進路結果についての生徒の満足度は88%であった。(○) ・令和7年度卒業生のうち、現役の国公立大学合格者は52名であった。(○) ・現役での国公立大学合格者のうち、総合型選抜での合格者率は0%であった。(△) ・『進路の手引』や模試分析資料および昨年度の入試結果分析資料などの面談用の資料を提供するとともに、生徒の進路相談には優先的に対応している。また、進路講話で進路閲覧室の活用方法を説明して、利用の促進を行った。</p> <p>(5) ア・令和7年度において、現役での国公立大学合格者のうち、総合型選抜での合格者率は0%であった。(△) イウ・図書館を利用した授業回数は71回であった。(◎)(再掲) ・令和7年度において、学校教育自己診断(生徒)において、「探究活動を通じて、主体的に学ぶ態度、論理的思考力等が身についた」の指数は82%であった。(○)(再掲) ・令和7年度において、生徒の図書館貸出冊数を2,288冊であった。(◎)(再掲) ・令和7年度において、学校教育自己診断(生徒)において、「普通科、英語科、理数科の3学科並置の特色を生かした教育活動の充実が図られている」の指数は88%であった。(○)(再掲)</p>
<p>4 チーム東高校として課題解決にあたる教員集団の確立</p>	<p>(1) 学校の教育課題に対して全員で取り組む環境づくり ア 学習支援クラウドサービスの活用により、教員間の情報共有、業務の連携、効率化を図る。 イ 学校の課題に適した教員チームを中心として、主体的な教員集団を確立するとともに、意見・提案しやすい環境づくりに努める。 ウ 有事において、教職員へ円滑な情報伝達を行うとともに、早期解決に向け、組織的に対応する。</p>	<p>(1) ア・日々の連絡から緊急連絡に至るまで、必要に応じて学習支援クラウドサービスを活用することで、業務の効率化を推進する。 イ・年度目標の達成に向けた校務分掌を組織するとともに、学校課題を解決するための教員チームを設置し、教職員の主体的な行動を促進する。 ウ・災害等が発生した場合、管理職から教職員への情報伝達および対策や指示が円滑に行われる組織体制を整える。</p>	<p>(1) ア・学校教育自己診断(教職員)において、「生徒情報共有、業務連携、効率化に取り組んでいる」の指数を80%以上にする。[R6 86%] イ・学校教育自己診断(教職員)において、「教育活動における課題や悩みについて、教職員間で話し合うことができ、意見や提案をしやすい環境である」の指数を80%以上にする。[R6 86%] ウ・学校教育自己診断(教職員)において、「地震や火災などの災害時に、迅速で適切な対応ができる態勢が整えられている」の指数を85%以上にする。[R6 92%]</p>	<p>(1) ア・学校教育自己診断(教職員)において、「生徒情報共有、業務連携、効率化に取り組んでいる」の指数は89%であった。(◎) イ・学校教育自己診断(教職員)において、「教育活動における課題や悩みについて、教職員間で話し合うことができ、意見や提案をしやすい環境である」の指数は84%であった。(○) ウ・学校教育自己診断(教職員)において、「地震や火災などの災害時に、迅速で適切な対応ができる態勢が整えられている」の指数は92%であった。(◎)</p>

	<p>(2) 働き方改革に関する取組</p> <p>ア 学校部活動指針の遵守及び全校一斉退庁日の遵守の推進</p> <p>イ 教職員への啓発と意識改革及び業務の平準化、効率化</p>	<p>(2)</p> <p>ア・学校部活動指針の遵守及び全校一斉定時退庁日の遵守を推進し、時間外在校等時間の縮減を図る。</p> <p>イ・職員会議等において、教職員への啓発と意識改革を図るとともに、特に時間外勤務の多い教員の実態を丁寧に把握し、個別の業務負担を減少させる。</p>	<p>(2)</p> <p>アイ・教職員の平均時間外勤務時間を、令和6年度比2%以上減とする。</p> <p>[R6 35時間14分]</p>	<p>(2)</p> <p>アイ・教職員の平均時間外勤務時間は、令和7年度比22%減であった。 [27時間29分]</p> <p>(◎)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>会議や研修等の情報共有や生徒の欠席連絡、災害時における対応において、学習支援クラウドサービスを活用し、迅速に情報共有、業務の連携、効率化を図れている。</li> </ul>
--	---	---	---	--